

# TOP MUSEUM



東京都写真美術館ニュース eyes120  
総合開館三十周年記念 鷹野隆大カスババーこの日常を生きのびるために—  
総合開館三十周年記念 TOPコレクション 不易流行 — 二〇二五年度年間スケジュール

総合開館30周年記念

# 鷹野隆大 カスババ

— この日常を生きのびるために —

東京都写真美術館は今年、総合開館から30周年を迎えました。その特別な一年の最初を飾る展覧会が「鷹野隆大 カスババ — この日常を生きのびるために —」。鷹野さんは1994年の初個展から、セクシュアリティと身体、都市と日常、写真の原理など、わたしたちが見て見ぬふりをしているもの、見過ごしてしまっているものへの関心呼び起こす作品を発表してきました。本展がどのようなものになるのか、その思いと構想についてお話をうかがいました。

— まず本展の構想がどのようにつくられたかからお聞かせください。

最初に考えたのは写真ならではのイメージ性

をうまく提示できないかということでした。写真表現はいま、作品の背景にある物語と結びつけて展示されることが多いと思うんです。この写真はこういう流れの中の一枚ですよ、と。しかし、今回は写真それぞれを独立させて、ポンとイメージだけがあるという状態で展示できないかと思いました。

会場全体のイメージは「都市」。都市空間にはさまざまな偶然の出会いがあります。見てくださった方たちがそれぞれのイメージと出会い、対話していただければと思っています。

— 都市と言えば、メインタイトルでもある〈カスババ〉が思い浮かびます。カスババは鷹野さんの造語で、都市の中のカスのような場(複数形)を撮ったシリーズです。もう20年以上続けているんですよ。

東京で暮らしていると、日々の生活の中で、写真

## PROFILE

鷹野隆大

Takano Ryudai



1963年福井県生まれ。セクシュアリティをテーマに1994年より作家活動を開始。2006年、写真集『IN MY ROOM』で第31回木村伊兵衛写真賞を受賞。毎日欠かさず撮ることを自らに課したプロジェクト〈毎日写真〉を1998年に開始し、その中から日本特有の無秩序な都市空間の写真を集めた『カスババ』を2011年に発表。その後、東日本大震災を機に影をテーマに様々な作品制作に取り組んでいる。2021年、個展「鷹野隆大 毎日写真 1999-2021」(国立国際美術館、大阪)を開催。2022年、第72回芸術選奨文部科学大臣賞受賞(美術部門)、第38回写真の町東川賞国内作家賞受賞。

撮影：藤澤卓也



〈2015.10.28.#a28〉〈カスババ2〉より 2015年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

を撮る気をなくさせるような、どうしてもなく退屈な場所が至るところにあって、なるべく見ないようにしてきたんですが、あるとき、最も身近なものを自分は無きものにしようとしているのではないかと思いました。それは存在するものを存在しないかのように扱う暴力的な行為ではないかと。だったら、それに向き合ってみなければ、と思い直して撮り始めたのがきっかけです。カスだと思ったら何も考えずに撮るようにしましたが、何のモチベーションも湧かないものに向けてシャッターを切るのには正直言って苦痛でした。オートフォーカスのコンパクトカメラだからできたんだと思います。ピントを合わせるという作業が必要だったら、そこで気持ちが折れ

て続けられなかったかもしれません。

— 撮りためていく中で〈カスババ〉について気づかれたことはありますか。

撮っている時にはよくわからなかったんですが、2010年に写真集を出すことになり、写真を見直した時に気づいたのが、ポイントがない場所だということ。写真を撮ると意識を持って歩いていると、どうしても撮るべきポイントを探してしまうんですね。カスババにはポイントがないから、目がぐるぐるとさまよう。収まりどころがない。そういう状態が不愉快だし、イライラさせるんだと思いあたりました。

表紙図版)鷹野隆大〈2012.08.12.#b30〉〈毎日写真〉より 2012年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



— それでも撮り続けた。写真集が出た後も続けていて、2冊目の写真集が出るそうですね。

ある時期、写真はもう終わったのかなと思ったことがありました。動画の解像度が一気に上がった頃です。解像度が十分あるなら、写真は動画から静止画を切り出せばそれで済むんじゃないかと。でも、実際に試してみるとうまくいかない。動画から切り出すのでは得られないイメージの現れが写真にはあるんです。写真を撮るといことは、その現れを求めるとなんじゃないだろうか気づきました。そのこととカスババを結びつけて考えてみよう。そう思いつくったのが『カスババ』の続編です。前作は2001年から2010年に撮ったもので、今作は2011年から2020年となっています。この展覧会



《2015.12.29.#12》〈毎日写真〉より2015年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



《2024.12.07.#21》〈毎日写真〉より2024年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

に合わせたタイミングで出版します。

— 〈カスババ〉は鷹野さんにとって写真とは何かを考える場なんですね。

はい、今回2冊目を出すにあたって、10年ごとの研究発表みたいなものかなぁと感じています。それと、〈カスババ〉シリーズはそもそも、「毎日写真」という毎日必ず一枚は写真を撮るプロジェクトの中から選び出した写真で構成されているのですが、この「毎日写真」自体が写真について考える場になっています。

— 本展は東京都写真美術館が総合開館30周年を迎えた記念展の第一弾です。東京都写真美術館にどのような印象をお持ちですか。

写真について考える機会を与えてくれる美術館ですね。19世紀の古典作品から新進作家まで、時代とともに写真という媒体と並走してきている美術館だと思います。

とくに最近は古典的な写真について考えることが多いので、古い作品のコレクション展には刺激を受けますね。古典的な写真を見ることは写真が生まれた時代背景を考えることであり、写真が帯びている近代性を確認する作業でもあります。そしてそれはわたしにとって、何が写真を写真たらしめているのかを探る機会でもあります。

— 写真誕生の昔にさかのぼると言えば、本展で展示される〈Sun Light Project〉でソルトプリント(単塩紙[塩化銀紙])という19世紀の写真発明当時の技法を使っていますね。近年、取り組まれている「影」をテーマにしたシリーズのひとつです。

写真について考えるうえで光と影は欠かせませんが、わたしはとくに影に興味があります。しかも「影の写真」ではなく、影そのものを写真にできないかと考えるようになりました。〈Sun Light Project〉



左)《2021.04.11.Ps.#03》〈Sun Light Project〉より 2021年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates  
右)《2019.12.31.P.#02(距離)》〈Red Room Project〉より 2019年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



はその試みのひとつで、太陽光によってできる影を採集しようとした作品です。普通の印画紙では性能が良すぎてあつという間に真っ黒になってしまうので、低感度のものはないかと考えているうちに、ある意味原始的な技法にたどりつきました。

ところが、こっちはこっちで感度が低すぎて、30秒ぐらい露光が必要なんですね。それで、影の輪郭がぼやけてしまうんです。その点でも難しかったです。でも、市販の印画紙ではなく感光材料を紙に塗るところから始めるので、写真の原理に触れているようで面白いんです。

— 写真の歴史をさかのぼる一方で、〈カスババ〉や〈毎日写真〉のように現代の東京や都市空間を主題にした作品もありますね。第31回木村伊兵衛写真賞を受賞した『IN MY ROOM』は部屋に人物を招いて撮影したポートレイトのシリーズですが、都会だからこそ成立する、都市の写真でもあると思います。

部屋の雰囲気が多量に出ていますが、ある種の抽

象化された空間なので、そこで現代の都市のあり方と結びつくかもしれません。

— ミニマルな空間から一步外に出ると、カオスな世界が広がる。それが〈カスババ〉だと言えるのかも。

東京の街はごちゃごちゃに見えますが、汚くしようと思ってそうだったわけではなく、それぞれが良かったと思った結果なんですよ。このまとまりのなさが東京の特徴で、それが日本の都市空間の特徴でもある。わたし自身はそういう東京をヨソ者として撮っているんだと思います。東京出身ではないので、木村伊兵衛とか荒木(経惟)さんのような東京出身の写真家たちとは東京との関わり方が違うと思いますね。

— 〈In My Room〉のようなセクシュアリティと身体をテーマにしたシリーズでは、〈おれと〉も展示されるそうですね。

〈おれと〉は被写体となってくれた方とわたしが

裸で記念写真を撮るシリーズなんですけど、自分としては今の社会情勢との兼ね合いもあって、今回はぜひ出したいと思っていました。

—— 社会情勢というのは、世界で紛争や政治不安が止まない状況でしょうか。

はい、このような時代、状況だからこそ、今回は思い切って、これまで展示できなかった作品を出そうと思いました。つまり、議論のある作品を出しづらい状況に抵抗すべき時であるような気がしたので。いままでわたしは正面切ってこういうことを表明して来なかったのですが、この状況では鷹揚にはしてられないなど。

わたし自身は写真という表現媒体に出会ったとき、自分の居場所を得た気がしました。自分を現す手段を手にするかどうかは、その後の人生でとても大きなことだったと振り返って思います。そしてそれを自分の解放区とするためには、ときに闘うことも避けられません。ところがいま、世の中全体が自分で枠をつくってそこからはみ出さないようにしているような気がします。居場所は人が与えてくれるものではないので、待っているとどんどん狭まってきます。わたしは大学で日々学生と接していますが、彼らにも自分の居場所を作ることの可能性を感じてもらえたらいいなと思います。

(インタビュー タカザワケンジ)



《レースの入った紫のキャミソールを着ている(2005.01.09.L.#04)》(In My Room)より 2005年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



《2001.11.24.T》(東京タワー)より2001年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



《2002.09.08.M.#b08》(立ち上がれキクオ)より 2002年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 総合開館30周年記念

# 鷹野隆大 カスババ —この日常を生きのびるために—

TOP 30th Anniversary Takano Ryudai: kasubaba Living through the ordinary

2F 2025.2.27|木| - 6.8|日|

鷹野隆大(1963-)は写真集『IN MY ROOM』(2005)で第31回木村伊兵衛写真賞を受賞し、現在も国内外で活躍を続ける写真家、アーティストです。鷹野は『IN MY ROOM』に代表されるセクシュアリティをテーマとした作品と並行し、〈毎日写真〉や〈カスババ〉といった日常のスナップショットを手がけ、さらに東日本大震災以降、「影」を被写体とした写真の根源に迫るテーマにも取り組んでいます。本展のタイトルである〈カスババ〉とは鷹野による造語で、カスのような場所(バ)の複数形です。

大規模な自然災害や感染症の世界的流行、経済発展による環境破壊や都市開発など、私たちは急速な時代の変化の渦中を生きています。鷹野は美しいものだけではない現実を受け入れ、弱いものみにくいものもそのまま、むき出しのイメージを見る者へ提示します。私たちは、身近でありながら目を凝らしてみることのない、自身が生きる日常の豊かさや混乱を、鷹野の作品を通しあらためて目にするでしょう。初公開作品を含め鷹野の軌跡を概観する本展が、出口が見えなくなりつつあるこの日常を生きのびるヒントとなれば幸いです。

### | 関連イベント

- ▶担当学芸員によるギャラリートーク
- 4.4(金) 14:00-(手話通訳付き)
- 5.2(金) 14:00-(手話通訳付き)
- ※当日有効の本展チケットまたは無料対象の方は証明書等のご提示が必要です。

【観覧料】 一般700円 ほか 各種割引あり  
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。  
【主催】 東京都/東京都写真美術館  
【後援】 J-WAVE 81.3FM 【特別協力】 ソニー株式会社



《2023.03.24.sc.#048》(CVD19)より 2023年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



《2013.08.16.#b07》(毎日写真)より2013年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

### ▶ 出品作家とゲストによる対談

- 3.15(土) ゲスト: 岡真理(現代アラブ文学研究者、早稲田大学教授)
- 4.5(土) ゲスト: 北川一成(デザイナー、GRAPH代表取締役)
- 5.3(土) ゲスト: 丹尾安典(雑学雑誌編集者、早稲田大学名誉教授)
- 5.24(土) ゲスト: 倉石信乃(詩人、批評家、明治大学教授)
- 【時間】 15:00-16:30 【会場】 東京都写真美術館 1階ホール
- 【定員】 190名(整理番号順入場/自由席) 【参加費】 無料
- ※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。





# 総合開館30周年記念 TOPコレクション 不易流行

TOP 30th Anniversary TOP Collection:  
Continuity and Change

3F 2025.4.5|土| - 6.22|日|

東京都写真美術館の総合開館30周年を記念するTOPコレクション展を開催します。本展は、学芸員5名の共同企画によるオムニバス形式です。多角的な視点から当館コレクションを選りすぐり、写真と映像の魅力をご紹介します。

本展のタイトル「不易流行」は、江戸初期の俳人・松尾芭蕉(1644-1694)が俳句の心構えについて述べた言葉に由来します。「不易を知らざれば基立ち難く、流行知らざれば風新たにならず[現代語訳:変わらないものを知らなくては基本が成立せず、流行を知らなくては新しい風は起こらない]」という言葉は、現代の私たちが芸術に対する姿勢として心に刻んでおくべきものです。この「不易流行」の



山元彩香《Untitled #168, Hokkaido, Japan》(We are Made of Grass, Soil, Trees, and Flowers)より 2015年 発色現象方式印画

心を大切に、本展は過去の芸術表現を深く理解し、その魅力を今に伝えていくとともに、現在の表現や時代の潮流にもしっかりと目を向けようとするものです。19世紀から20世紀、現代までを取り上げる5つのテーマで当館コレクションを読み解きます。

## 第1室 写された女性たち 初期写真を中心に

第1室では初期写真を中心に、20世紀初頭にかけて写真に写された女性たちを取り上げます。時代とともに変化する写真技法によって、様々な階級や職業、民族の女性たちが、異なる場面、環境、そして写真家の求める姿で現れます。一方でこの時期は、女性の政治参加や権利向上を求める運動が最初に盛り上がった頃と重なります。そこにはまた、望まれる姿で写りながらも、わずかにでも自分が求める姿で写ろうとする女性たちが見えるかもしれません。



大久保好六《豊子さん》1926年 プロムオイル印画

出品作家  
(予定)

下岡蓮杖/フェリーチェ・ベアト/アウグスト・ザンダー/ジャック・アンリ・ラルティエ/オノデラユキ/山元彩香/石内都/塩崎由美子/片山真理/大塚千野/アルフレッド・スティエグリッツ/ドロシア・ラング/林忠彦/江成常夫/菱田雄介/植田正治/杉本博司/山上新平/赤瀬川原平/田村彰英/長野重一/潮田登久子/鬼海弘雄/瀬戸正人/大西みつぐ/山崎博/荒木経惟/中野正貴/佐内正史/澤田知子/長島有里枝/野口里佳/杉浦邦恵/古橋佛二 ほか

【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり  
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。  
【主催】東京都/東京都写真美術館

## 第2室 寄り添う

「寄り添う」という言葉は、はっきりと目に見える行動にとどまらず、心や気持ちを受け止めること、相手を思いやり、共感する表現として用いられています。第2室では、「寄り添う」をテーマとし、作家自身や作家にとって大切な人々、また、周囲の人々に心を寄せて制作された作品を取り上げ、寄り添うことの多様なあり方について考察します。

大塚千野《1982 and 2005, Paris, France》  
(Imagine Finding Me)より 2005年 発色現象方式印画



## 第3室 移動の時代

陸、空、そして宇宙へと人類の活動範囲が劇的に広がっていった「移動の時代」。20世紀における交通の発達と技術革新は、人々の意識や価値観をも変え、世界をより密接に結びつけるきっかけとなりました。第3室では、「移動」に焦点を当て、20世紀の人々との密接な関係をたどり、移動の時代を捉えたまなざしは、歴史を鮮やかに描き出し、当時の人々の思いを鮮明に伝えてくれます。収蔵作品を通じて、20世紀の「移動」が、現代にどのような影響を及ぼしているのかを考えます。

ルイス・ハイン《アメリカへ乗り込む、エリス島》1908年  
ゼラチン・シルバー・プリント



## 第4室 写真からきこえる音

写真媒体において「音」は物理的に記録されません。空間には、その環境に関する情報が含まれており、そこには聴覚的な情報もあるでしょう。写真に捉えられた空間には、たしかに「音」が存在し、作品を鑑賞する私たちの内に、私たちの経験を通して現れます。第4室では、「音」を意識させる写真作品を通して、そこにあったはずの現象である「音」を捉えなおす、きっかけについて考えます。



植田正治《風景の光景》より 1970-80年  
ゼラチン・シルバー・プリント

## 第5室 うつろい 昭和から平成へ

昭和の終わりから平成の初めまでの写真・映像表現とその時代背景に目を向けます。1995年に総合開館記念展として開催された「写真都市TOKYO」展の出品作品では、古いものと新しいものが入り混じる90年代の都市風景と人々の姿が写し出されています。第5室では、この展覧会を再現するとともに、当時の新世代作家たちの出世作を紹介し、30年前の時代に思いを馳せます。



荒木経惟《冬の旅》より 1990年 ゼラチン・シルバー・プリント

図版はすべて東京都写真美術館蔵

## 関連イベント

担当学芸員によるギャラリートークのほか、関連イベントを予定しています。詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



2025  
年度

# 東京都写真美術館展覧会スケジュール

東京都写真美術館で、2025年4月～2026年3月に開催する展覧会ラインナップをご紹介します。国内外で活躍する作家の個展や、当館珠玉の名作コレクション、新進作家によるグループ展など、1年を通じてさまざまな作品との出会いをお楽しみください。

企 企画展 収 収蔵展 誘 誘致展

年間パスポートの特典は、企画展、収蔵展、誘致展で異なりますので、詳細は公式サイトをご覧ください。



展覧会の詳細や関連イベントは、決定次第、公式サイトにアップします。公式TwitterやInstagramではタイムリーな情報を発信します。

@topmuseum topmuseum  
https://www.topmuseum.jp

2025

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

2026

1

2

3

3F  
展示室

## 総合開館30周年記念 TOPコレクション 不易流行 収

4.5(土) - 6.22(日)

写真の黎明期である19世紀から現代まで、5つのテーマでコレクションの魅力を紹介



特集はP7

## 総合開館30周年記念 TOPコレクション トランスフィジカル 収

7.3(木) - 9.21(日)

モノとして存在する写真の「物質性」や、被写体や作家自身の「身体的表現」に着目



## 総合開館30周年記念 日本の新進作家 vol.22 企

10.2(木) - 2026.1.7(水)

日本の新進気鋭の作家を発掘、紹介するグループ展



恵比寿映像祭

3Fコミッション・プロジェクトは3.22(日)まで開催

## 恵比寿映像祭2026

2.6(金) - 2.23(月・祝)

恵比寿を起点に展開するアートと映像のフェスティバル

2F  
展示室

## 総合開館30周年記念 鷹野隆大 カスババ —この日常を生きのびるために— 収

2.27(木) - 6.8(日)

セクシュアリティ、日常、影といった主題を軸に、未発表作品も多数紹介



特集はP1

## 総合開館30周年記念 ルイジ・ギッリ 企

7.3(木) - 9.28(日)

イタリアの写真家ルイジ・ギッリのアジア初の美術館個展



## 総合開館30周年記念 熱き沸騰の時代 プロヴォーク 収

10.15(水) - 2026.1.25(日)

写真家と学生の表現の二つの流れを軸とし、1960-70年代の様相を浮かび上がらせる



## 恵比寿映像祭2026

2.6(金) - 2.23(月・祝)

## TOPコレクション W.ユージン・スミス 収

3.17(火) - 6.7(日)

アトリエ(通称・ロフト)を起点に、新たなスミス像に迫る



B1F  
展示室

## ロバート・キャバ 戦争 誘

3.15(土) - 5.11(日)



## 第50回 2025 JPS展 誘

5.17(土) - 5.25(日)

## 被爆80年企画展 ヒロシマ1945 誘

5.31(土) - 8.17(日)

## 総合開館30周年記念 ペドロ・コスタ 企

8.28(木) - 12.7(日)

ポルトガルの鬼才、映画監督ペドロ・コスタの日本初個展



## Prix Pictet 嵐 誘 (予定)

## APAアワード2026 誘

2.28(土) - 3.15(日)

小檜山賢二 誘  
(予定)

1) 中野正貴《Udagawa-cho, Shibuya-ku, Jan.1991》〈TOKYO NOBODY〉より 1991年 発色現像方式印画 東京都写真美術館蔵 2) 小本章《90-23》〈Seeing〉より 1990年 東京都写真美術館蔵 ©Komoto Akira 3) スクリプカリウ落合安奈《ひかりのうっわ》2025年 4) 鷹野隆大《2002.09.08.M.#b08》〈立ち上がれキオオ〉より 2002年 ©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates 5) ルイジ・ギッリ《モランディのアトリエ》1991年 東京都写真美術館蔵 6) 『provoke』1号(プロヴォーク社)1968年11月 7) W.ユージン・スミス《AS FROM MY WINDOW》より 1958年頃 東京都写真美術館蔵 ©1958,2025 The Heirs of W. Eugene Smith 8) ロバート・キャバ《Dデー作戦》でオマハ

・ビーチに上陸する米軍、前景の兵士は 第16連隊第2大隊所属のヒューストン・S.ライリーとみられる、ノルマンディー、フランス、1944年6月6日 東京富士美術館蔵 9) ペドロ・コスタ《ホース・マネー》より 2014年

5月以降に始まる展覧会名はすべて仮称です。展覧会スケジュールは2025年3月現在の予定です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

B1F 2025.3.15|土| - 5.11|日|

20世紀が生んだ偉大な写真家のひとり、ロバート・キャパ。「カメラの詩人」と言われ、またすぐれた「時代の証言者」でもありました。その写真の背景には苦闘するヒューマニストの眼があり、戦争の苦しみをとらえるとき、そこにキャパの人間としてのやさしさ、ユーモアがあります。キャパは人間を取り捲く状況を少しでもよいものにしようという強い信念と情熱をもって状況に身を投じましたが、それだけではなく写真のもつ衝撃力を見分ける確かな眼を持ち合わせていました。

本展は、東京富士美術館が所蔵する約1000点のコレクション・プリントから、“戦争”に焦点を当てた作品約140点を厳選して展示します。



ロバート・キャパ『Dデー作戦』でオマハ・ビーチに上陸する米軍、前景の兵士は第16連隊第2大隊所属のヒューストン・S. ライリーとみられる、ノルマンディー、フランス、1944年6月6日 東京富士美術館蔵

【観覧料】 一般1,200円 ほか 各種割引あり  
【主催】 クレヴィス 【共催】 東京都写真美術館  
【協力】 東京富士美術館

〈お問い合わせ〉クレヴィス MAIL: info@crevis.jp

※事業は諸般の事情により変更することがございます。  
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



## 手話による展覧会解説動画を配信中です!

東京都写真美術館では、手話による解説動画を見ながら展覧会をご鑑賞いただけます。展示室入口に掲示された二次元コードを、ご自身のスマートフォンやタブレット端末で読み取ってご覧ください。配信開始時期は、当館ウェブサイトやSNSでお知らせします。アーカイブは、当館公式YouTubeにてご覧いただけます。



わかりやすく豊かな日本手話表現による解説です。



## アクセシビリティ情報ページ「だれでもTOP」

東京都写真美術館では、どなたにも安心してご来館いただけるよう、アクセシビリティ情報を、当館ウェブサイトにて詳しく紹介しています。



ナビゲーターが東京都写真美術館への行き方や施設について、動画で紹介。手話・日本語字幕・日本語音声の3種類で説明しています。

恵比寿駅からのバリアフリールート

ベビーカーや車いすの貸出

多機能トイレ、授乳室、休憩スペースなどの館内設備

筆談や手話、点字による案内などのサポート

など ぜひご利用ください。



立体加工と点字で「だれでもTOP」を紹介した二次元コード付きカードも、館内の受付で配布しています。



1F HALL / 上映

## 1F ユーリー・ノルシュテイン ドキュメンタリー&短編作品集

『話の話』『霧につつまれたハリネズミ』で知られる世界的なアニメーション作家、ユーリー・ノルシュテインのドキュメンタリーと、短編作品集を上映します。

### 『ユーリー・ノルシュテイン 文学と戦争を語る』

2022年のロシアとウクライナの紛争が始まった1年後、モスクワに住むノルシュテインへのインタビューが実現しました。ゴッホの1枚の絵から見えるもの、プーシキン、チャーホフ、ゴーゴリなどのロシア文学が教えてくれる人間の尊厳、一茶や芭蕉、北斎がもつ軽やかな概念とは。先人たちの残してくれた芸術や文学から、私たちは一体何を学べるのか。ノルシュテインは数々の芸術作品や文学に言及しながら、この世界を豊かに読み解いていきました。混迷するこの世界で、手がかりを求める全ての人へ贈るドキュメンタリー作品です。

2024年/90分/日本 ■監督:才谷遼 ■出演:ユーリー・ノルシュテイン ■劇中アニメーション:「プーシキンの決闘」地場 賢太郎「一茶」彦すけあ「北斎」大橋 学

### 『ユーリー・ノルシュテイン作品集 ひとりじゃないんだよ』

ロシアの子ども向け番組のオープニングとして制作された『おやすみなさいこどもたち』や、砂糖会社のシンボルのライオンが活躍する『ロシア砂糖CM』も含めた全8作品の短編作品集を上映。ノルシュテインからの贈りものといえる珠玉の作品集です。



ユーリー・ノルシュテイン作品集  
ひとりじゃないんだよ

85分/ロシア ■監督:ユーリー・ノルシュテイン ■美術監督:フランチェスカ・ヤールブソフ[『25日・最初の日』(9分)、『ケルジェネツの戦い』(10分)、『キツネとウサギ』(12分)、『アオサギとツル』(10分)、『霧の中のハリネズミ』(10分)、『話の話』(29分)、『おやすみなさいこどもたち』OP/ED(3分)、ロシア砂糖CM 4本(2分)]

【上映期間】2025.3.4(火)-3.30(日) 【休映日】2025.3.10(月)、15(土)、17(月)、24(月)、27(木)、28(金)  
【料金】一般1,300円 ほか

〈お問い合わせ〉株式会社ふゅーじょんぶろだくと Morc阿佐ヶ谷  
MAIL: koga.school@laputa-jp.com 〈公式サイト〉https://war-and-literature.com/

※事業は諸般の事情により変更することがございます。  
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。





# 支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、  
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただいています。

## 《特別賛助会員》

キヤノン(株)  
全日本空輸(株)  
(株)ニコン

## 《賛助会員》

キヤノンマーケティングジャパン(株)  
(株)資生堂  
大日本印刷(株)  
TOPPANホールディングス(株)  
富士フイルム(株)

## 《特別支援会員》

アサヒグループホールディングス(株)  
サッポロ不動産開発(株)  
サッポロホールディングス(株)  
東急建設(株)  
ビクテ・ジャパン(株)

## 《支援会員》

あいおいニッセイ同和損害  
保険(株)  
(株)アイネスト  
アイング(株)  
アオイネオン(株)  
(株)アクト・テクニカル  
サポート  
(株)浅沼商会  
(株)朝日工業社  
朝日新聞社  
(株)朝日新聞出版  
朝日生命保険(相)  
(有)アスペン/POLARIS  
(株)アフロ  
(株)アマナ  
(株)岩波書店  
(株)潮出版社  
(株)エージーピー  
(一財)AVCC・霞が関ナレッジ  
スクエア(KK)<sup>2</sup>  
SMBC日興証券(株)  
SB C&S(株)  
(株)NHKエデュケーション  
(株)NHKエンタープライズ  
(株)NHK出版  
(株)NHKテクノロジーズ  
ENEOSホールディングス(株)  
エルメス財団

OMデジタルソリュー  
ションズ(株)

カールツァイス(株)  
花王(株)  
鹿島建設(株)  
(株)KADOKAWA  
カトーレック(株)  
神奈川新聞社  
カルチュア・コンビニエンス・  
クラブ(株)  
(株)キクチ科学研究所  
(株)キタムラ  
キックマン(株)  
(株)紀伊屋書店  
ギャラリー小柳  
共同印刷(株)  
(一社)共同通信社  
空港施設(株)  
(株)久米設計  
グロリー(株)  
(株)ケー・アンド・エル  
ゲッティイメージズジャパン(株)

興亜硝子(株)  
(株)弘亜社  
(株)公栄社  
(株)廣済堂  
(株)講談社  
(株)光文社  
(株)国書刊行会  
(株)コスモスインターナショナル  
小山登美夫ギャラリー(株)  
佐川印刷(株)  
三愛オプリー(株)  
産経新聞社  
サントリーホールディングス(株)  
(株)ジェイアール東日本企画  
(株)JTB  
(株)シグマ  
(株)実業之日本社  
信濃毎日新聞社  
清水建設(株)  
(株)写真弘社  
写真の学校/東京写真学園  
チャンネル(同)  
(株)集英社  
シュッピン(株)  
(株)小学館  
松竹(株)  
信越化学工業(株)  
(株)新潮社

(株)晋遊舎

(株)スタジオエムジー  
(株)スタジオジブリ  
(株)SUBARU  
住友生命保険(相)  
(株)住友倉庫  
(株)生活の友社  
セイコーグループ(株)  
双日(株)  
ソニーグループ(株)  
損害保険ジャパン(株)  
第一生命保険(株)  
台新国際商業銀行  
大和証券(株)  
(有)タカ・イシイギャラリー  
共同印刷(株)  
(株)竹中工務店  
(株)タニタ  
(株)タムロン  
(株)丹青社  
(株)中央公論新社  
中外製薬(株)  
(株)TBSテレビ  
(株)テレビ朝日  
(株)テレビ東京  
(株)電通  
東亜建設工業(株)  
東映(株)  
(株)東京印書館  
東京工科大学/日本工学院  
東京工芸大学  
東京新聞・中日新聞社  
(株)東京スタデオ  
東京造形大学  
東京総合写真専門学校  
(株)東京ダイケンビルサービス  
東京建物(株)  
東京地下鉄(株)  
東京テアトル(株)  
東京都競馬(株)  
(株)東京ニュース通信社  
専門学校東京ビジュアル  
アーツ・アカデミー  
(株)東京美術倶楽部  
東京メトロポリタンテレビ  
ジョン(株)  
(株)東芝  
東宝(株)  
(株)東北新社  
(株)東洋経済新報社

(株)徳間書店

戸田建設(株)  
(株)トロンマネージメント  
(株)ニコンイメージングジャパン  
日油(株)  
日活(株)  
日機装(株)  
日光ケミカルズ(株)  
日本貨物航空(株)  
日本空港ビルデング(株)  
日本経済新聞社  
(株)日本廣告社  
(公社)日本広告写真家協会  
日本写真印刷コミュニケー  
ションズ(株)  
(株)高島屋  
(公社)日本写真協会  
日本写真芸術専門学校  
日本生命保険(相)  
日本大学芸術学部  
(株)日本デザインセンター  
(株)ニッポン放送  
日本レコードマネジメント(株)  
日本ロレックス(株)  
(株)テレビ東京  
(株)博報堂  
(株)博報堂DYメディア  
パートナーズ  
(株)博報堂プロダクツ  
(株)ハーツ  
パナソニックホールディングス(株)  
(株)パラゴンホールディングス  
(株)バンダイナムコフィルム  
ワークス  
ぴあ(株)  
北海道 写真の町東川町  
(株)美術出版社  
(株)ビックカメラ  
(株)ピラミッドフィルム  
(株)ファーストリテイリング  
(株)フェドラ  
(株)富士通パーソナルズ  
(株)フジテレビジョン  
(株)フジヤカメラ店  
芙蓉総合リース(株)  
(株)フレームマン  
プロフォト(株)  
(株)文化工房  
(株)文藝春秋  
北海道新聞社

(株)ホテルオークラ東京

本田技研工業(株)  
毎日新聞社  
丸善雄松堂(株)  
マルミ光機(株)  
(株)マンダム  
(株)みずほ銀行  
三井住友海上火災保険(株)  
三井倉庫ホールディングス(株)  
三井不動産(株)  
三菱製紙(株)  
三菱電機(株)  
明治安田生命保険(相)  
森ビル(株)  
ヤマト運輸(株)  
(株)吉野工業所  
(株)ヨドバシカメラ  
読売新聞社  
ライオン(株)  
ライカカメラジャパン(株)  
(株)リビタ  
(株)良品計画  
(株)ロボット  
(株)ワコウ・ワークス・オブ・  
アート  
(株)ワコール

支援会員の  
詳細は  
こちら▼



2F SHOP  
ミュージアム・  
ショップ

NADIFT  
BAITEN

展示会の開催に合わせて、品揃えがガラリと変わるミュージアム・  
ショップ。春のあたたかな日差しを反射してきらめくプリズムボール  
やプリズムモビール。窓辺に飾ったり吊るしたりすることで、さまざ  
まな彩りを見せてくれます。不規則ながらもカラフルに輝く光の  
動きを楽しんでみてはいかがでしょうか。

プリズムボール(クリア/マット) 各4,840円(税込)  
プリズムモビール 4,840円(税込)



詳細  
ページは  
こちら▼



[営業時間] 10:00-18:00(木・金は20:00まで)  
[TEL] 03-6447-7684  
[定休日] 美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。

1F CAFE  
カフェ

フロムトップ

台湾で人気の屋台飯、ルーロー飯をワンプレートをご用意してい  
ます。カラーゲンたっぷりの皮付きの豚肉にこんにやくを加えた食  
感楽しいルーロー飯に色鮮やかな野菜を添えました。コーヒーま  
たは日本茶付き1,600円(税込)。



詳細  
ページは  
こちら▼




[営業時間] 10:00-18:00(木・金は20:00まで)  
[TEL] 070-8591-3730  
[定休日] 美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。



# SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、  
こちら▶



	3F	2F	B1F	1F
2025				
3	総合開館30周年記念 恵比寿映像祭2025 コミッション・プロジェクト 3.23(日)まで	総合開館30周年記念 鷹野隆大 カスババ —この日常を 生きのびるために— (収)	ロバート・キャパ 戦争 (誘)	ユーリー・ノルシュテイン ドキュメンタリー& 短編作品集 『ユーリー・ノルシュテイン 文学と戦争を語る』 『ユーリー・ノルシュテイン 作品集 ひとりじゃないんだよ』 3.4(火) - 3.30(日)
4			3.15(土) - 5.11(日)	
5	総合開館30周年記念 TOPコレクション 不易流行 (収)	2.27(木) - 6.8(日)	第50回 2025 JPS展 (誘)	
6	4.5(土) - 6.22(日)		5.17(土) - 5.25(日)	
7		総合開館30周年記念 ルイジ・ギッリ (企)	被爆80年企画展 ヒロシマ1945 (誘)	
8	総合開館30周年記念 TOPコレクション トランスフィジカル (収)	7.3(木) - 9.28(日)	5.31(土) - 8.17(日)	
9	7.3(木) - 9.21(日)		総合開館30周年記念 ペドロ・コスタ (企)	
10	総合開館30周年記念 日本の新進作家 vol.22 (企)	総合開館30周年記念 熱き沸騰の時代 プロヴォーク (収)	8.28(木) - 12.7(日)	東京都内の美術館・ 博物館等をお得に見られる 「ぐるっとパス」 ▼詳細はこちら▼
11	10.2(木) - 2026.1.7(水)	10.15(水) - 2026.1.25(日)	Prix Pictet 嵐 (誘)	
12			(予定)	
2026				
1	恵比寿映像祭 2026 2.6(金) - 2.23(月・祝)			
2			APAアワード2026 (誘)	
3	3階展示室のみ 3.22(日)まで	TOPコレクション W.ユージン・スミス (収)	2.28(土) - 3.15(日)	
		3.17(火) - 6.7(日)	小檜山賢二 (誘)	
			(予定)	

(企) 企画展 (収) 収蔵展 (誘) 誘致展

## TOP MUSEUM 30th ANNIVERSARY

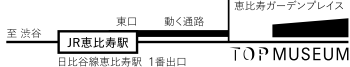
### 東京都写真美術館は、総合開館30周年を迎えました!

東京都写真美術館は、写真・映像の専門美術館として、1995年恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館し、今年2025年1月に30周年を迎えました。



## 東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで) ※入館は閉館30分前まで。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始

東京都写真美術館ニュース「アイズ」120号 □発行日:2025年3月19日 □企画・編集:東京都写真美術館管理課企画広報係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2025 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、消費税込みの価格です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はウェブサイトをご覧ください。